

「気道周辺の軟組織を考慮した顎顔面口腔育成治療」

～歯科の新しい分野への取り組みとその報告

本年、顎顔面口腔育成研究会が発足した。この分野は、J. Mew が（1958年）提唱するフェイシャルオーソトロピクス（自然成長誘導法）において、顎顔面の発育は遺伝要因よりも環境要因が強く、生理的発育方向は水平方向であり、垂直方向への発育は不正咬合につながるという理念にもとづく。ここでは、幼児・小児のポスチャーに基づく「上顎位」をいかに生理的に誘導するかというバイオブロック療法、ならびに、「ランパ」療法（三谷寧による顎外装置を使い頭蓋上下顎複合体の前上方への牽引拡大療法）が紹介されている。今回、一研究会員の立場から、当該療法によって小児喘息患者の治療がみられた症例を中心に、歯科の新しい分野としての「顎顔面口腔育成」の臨床の実際を紹介し、歯科と口腔領域に隣接する呼吸器系疾患との相関性について報告する。

中澤 吾郎

平成5年岡山大学歯学部卒

顎咬合学会

顎顔面口腔育成研究会 所属

中澤歯科（東大阪市）副院長

（昭和42年大阪府生まれ）